

KIZUNA レポート

第94期 中間期

2023年4月1日～9月30日

つなぐを
化学する



荒川化学工業株式会社



株主の皆様へ

代表取締役社長
宇根 高司

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第94期中間期の業績をご報告するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、一部の地域を除き緩やかに持ち直しているものの、依然として地政学リスクの高まりや、原油・エネルギー価格の高止まり、各国の金融政策に伴う影響、中国経済の先行き懸念などが景気の下振れリスクとなっております。また、国内経済においても、景気は緩やかに回復し、生産は持ち直しの兆しがみられるものの、海外景気の下振れや供給面での制約、物価上昇、為替変動などのリスクに留意することが必要な情勢が続いています。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、2021年度よりスタートしました第5次中期5ヵ年経営実行計画の方針（KIZUNA経営の推進とKIZUNA指標の達成）に沿った重点施策を進め、コア技術・素材を中核とした事業ポートフォリオ改革や新事業の創出などによる持続可能な地球環境と社会を実現するための取り組みに注力しております。業績面では、高付加価値製品の拡販、収益改善策に取り組んでおりますが、原材料価格やエネルギーコストが高止まりしていること、スマートフォンの販売不振などによる電子部品の需要環境低迷が継続しております。また、5月下旬から連続運転を開始した千葉アルコン製造株式会社の減価償却費の増加が収益性に大きく影響し

ておりますが、中長期的な成長市場の需要に応えるべく、水島工場と合わせた2拠点供給体制によるグローバル販売戦略の再構築を進め、水素化石油樹脂の安定供給と収益性の向上を図ってまいります。なお、荒川ヨーロッパ社（ドイツ）は、水素化石油樹脂の製造を2023年4月上旬に終了しましたが、販売拠点としての事業活動は継続しています。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は346億72百万円（前年同期比16.9%減）、営業損失は18億27百万円（前年同期は営業利益4億36百万円）、経常損失は14億51百万円（前年同期は経常利益7億56百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は7億53百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失12億25百万円）となりました。

通期の業績予想につきましては、主力の光硬化型樹脂や国内での紙力増強剤などの販売回復が想定よりも遅れる見通しであることに加え、原材料価格やエネルギーコストが高止まりしていることから、売上高、営業利益、経常利益はともに前回発表予想を下回る見込みとなりました。

当社グループにおきましては、中国経済の低迷、電子部品関連分野を中心とした需要の低迷継続により、通期ではさらに営業損失、経常損失が拡大する見通しですが、来期以降の業績回復に向け施策を進めております。

まず水素化石油樹脂についてですが、千葉アルコン製造株式会社では早期実績化を目指すため、お客様での評価へと進めています。また、成長分野と位置付けているファイン・エレクトロニクス分野では精密研磨剤の第2工場が竣工を迎えるとともに、2024年4月には光硬化型樹脂の新設備が完工予定であり、今後の需要増加に対応しさらなる拡大・発展を目指すべく設備投資を進めてまいります。

さらに新たな事業領域として目指しているライフサイエンス分野にも積極的に経営資源を投入し、産官学連携、展示会への出展などを実施しております。

2期連続の赤字決算という結果は避けられない状況ですが、この厳しい経営状況に臆することなく、短期および中長期の様々な課題に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第5次中期5ヵ年経営実行計画（2021～2025年度）

V-ACTION for sustainability

- ・Vector 方向・進路（サステナビリティ）
- ・Value 価値（企業価値）
- ・Variety 変化・多様性（中計最終時の姿）
- ・Venture 冒険的事業（みつける）
- ・Vitality 活力（働きがいと生産性の向上）

人と事業の新陳代謝の深化、事業基盤の持続性を確保し、持続可能な地球環境と社会を実現するための課題に取り組み、付加価値・新規事業の創出、安全文化の醸成、および働きがいと生産性の向上を目指す

荒川化学グループが掲げるSDGs選定目標



事業の概況

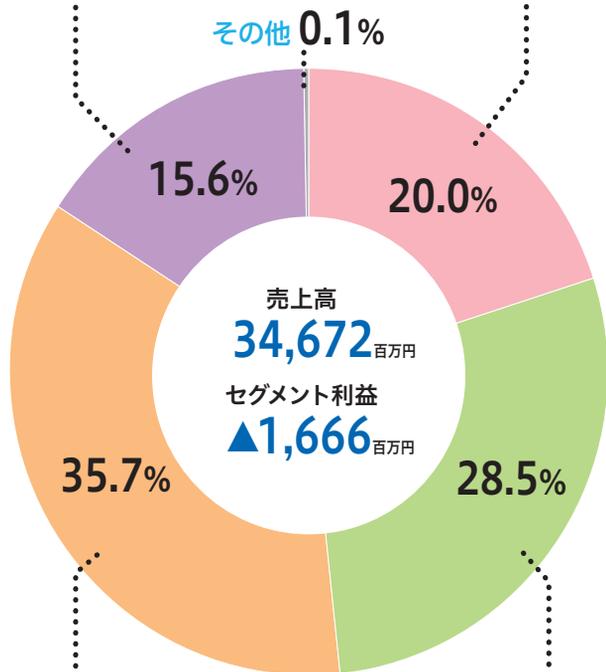
決算ハイライト(連結)

ファイン・エレクトロニクス事業

売上高：5,419百万円
セグメント利益：
▲319百万円

機能性コーティング事業

売上高：6,937百万円
セグメント利益：
109百万円



粘接着・バイオマス事業

売上高：12,393百万円
セグメント利益：
▲1,802百万円

製紙・環境事業

売上高：9,883百万円
セグメント利益：
330百万円

その他 売上高：38百万円
セグメント利益：16百万円

前中間期

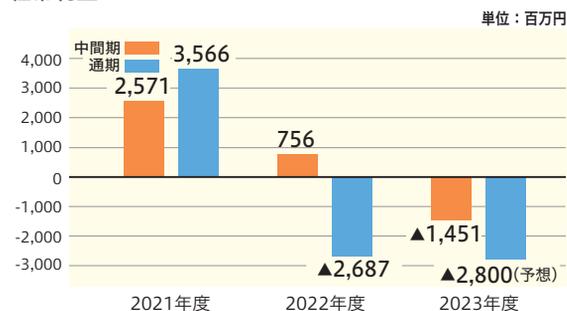
当中間期

売上高	41,712 百万円	34,672 百万円
営業利益	436 百万円	▲1,827 百万円
経常利益	756 百万円	▲1,451 百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲1,225 百万円	▲753 百万円

▶売上高



▶経常利益



▶親会社株主に帰属する当期純利益



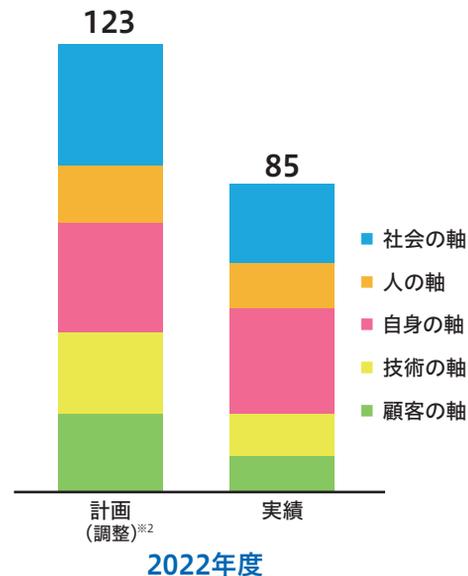
KIZUNA指標の進捗

荒川化学グループでは、2021年度からスタートした第5次中期5カ年経営実行計画 **V-ACTION for sustainability** においてKIZUNA指標¹を導入し、サステナビリティに対する各種取り組みの進捗状況のモニタリング・評価をサステナビリティ委員会でおこなっています。

2022年度の実績は、KIZUNA指標の目標123ポイントに対して69%の85ポイントとなりました。

5つのKIZUNA	各指標に関する進捗(ポイントの乖離)
【社会の軸】 まもる	CO ₂ 排出量削減率は2015年度比50.4%となり、カーボンニュートラル都市ガスや再生エネ電気の導入の拡大など2030年度目標を上回るペースで進捗し、保安力評価は向上したものの、休業災害が発生し、計画比大きく乖離しました。
【人の軸】 関わりあう	海外駐在員の邦人指数は計画以上に進捗していますが、海外売上高伸長率やパイオマス度換算販売量指数は業績の低迷に連動しており、計画から乖離がみられました。
【自身の軸】 主役になる	付加価値労働生産性は業績の低迷に連動しておりますが、男性育児休業取得率が92.3%と大幅にアップ、ミッションをSHIFTした数も計画以上に進捗しました。新たな社会貢献活動による加算もあり、順調に進捗しました。
【技術の軸】 技術の伝承と革新	サステナビリティ製品の連結売上高指数は2019年度比17%アップとなり、順調に推移しておりますが、NEXT事業の創出として「そだてる」ミッションへの移行が進まず、大幅に乖離しました。
【顧客の軸】 お客様と共に歩む	持続可能な調達率は順調に推移しているものの、業績の低迷に加え、調達先監査件数が伸びず、品質クレームの発生などもあり、大幅に乖離しました。

課題を認識しながら、社員一人ひとりが意識を高め、自分ごと化としてACTIONすることで個人の成長と会社の成長が連動し、**Well-being**となるように取り組んでおります。



- *1 KIZUNA指標は、当社グループにとって優先的な重要課題から設定した「ありたい姿」を実現するための定量化した指標であり、5つのKIZUNAの軸に区分し、各指標に対する配分の重みや進捗によって独自のポイント換算によりモニタリングして管理しています。
- *2 サステナビリティ・リンク・ボンドの発行に連動させた指標やプライム市場への移行にともなう追加指標もあり、KIZUNA指標のポイント配分を調整しています。

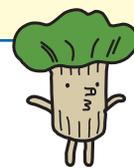
TOPICS

YUNGA Forests Challenge Badgeプログラムに協賛

未来を担う子供たちに森林が日々の生活のなかで大切な役割を果たしていることを学ぶ機会を提供することで持続可能な地球環境と社会の実現に貢献したいという想いから、YUNGA Forests Challenge Badgeプログラムに協賛しています。

当プログラムを通してハイキングを実施し子供たちに自然に対する想いを学ぶとともに、「マツタロウ&ロジーナ教室」を通して化学が環境負荷を低減する一面についても学んでもらいました。

YUNGA：国際連合食糧農業機関の参加の組織として2009年に発足。未来の担い手である若者や子供たちが世界に視野を広げ、その変化の主体になっていけるよう働きかけをを目指す。



4 質の高い教育をみんなに



15 陸の豊かさも守ろう



会社概要 (2023年9月末時点)

商号	荒川化学工業株式会社
所在地	大阪府中央区平野町1丁目3番7号
代表者	取締役社長 宇根 高司
創業	明治9年(1876年)
会社設立	昭和6年1月(1931年)
資本金	33億43百万円
従業員数	1,680名(連結)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	6月中		
基準日	定時株主総会	3月31日	
	剰余金の配当	期末	3月31日
		中間	9月30日
公告方法	電子公告		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先 (お問い合わせ先)	大阪府中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)		

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。